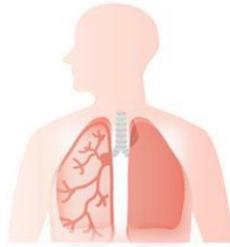


呼吸器外科のご紹介

呼吸器外科と聞いてどんなことを思い浮かべますか？咳や息切れなどで困って病院を受診しようと思ったときに、呼吸器外科が思い浮かぶことは恐らくないですよね。そういう意味で、なかなか馴染みの薄い診療科である呼吸器外科が何をしている科なのかを簡単にご説明させていただきます。



呼吸器外科で手術の対象となる臓器の約 9 割は肺を対象としております。さらに肺の病気の中で最も扱うことが多いのが、現在日本人のがんによる死因第 1 位である肺がんです。肺がんの治療は大きく分けて手術、薬物療法、放射線療法がありますが、その中の手術を呼吸器外科で担当しています。薬物療法（抗がん剤、分子標的治療薬、免疫療法など）は主に呼吸器内科で、放射線療法は放射線科で行います。どの治療法を選択するかについては、がんの進行度や患者さんの全身状態などを評価し、合同カンファレンスで決定しています。

その他、呼吸器外科手術で担当している疾患は、気胸（何らかの理由で肺に穴が空いてしまい肺から空気が漏れてしまう病気）、膿胸（肺炎をこじらしてしまい胸の中に膿が貯まってしまう病気）や、両方の肺の間にある縦隔と呼ばれる部分にできた縦隔腫瘍などです。ほとんどの場合、胸腔鏡という細いスコープを用いて手術を行います。そのおかげで、以前のように大きく胸を開けることや肋骨を切ることは少なくなっており、術後の患者さんに対する負担が少なくなっていることを実感しています。

呼吸器外科専門医の資格を持った医師は県内に 16 名おります。桐生厚生総合病院では地域の患者さんに貢献できるよう、その内の 2 名で診療に当たっております。また当院では肺がんの CT 検診も行っておりまして、何か気になることがございましたらいつでも呼吸器外科外来までお問い合わせください。



【呼吸器外科診療部長 田嶋 公平】

